

# 軍神の隣席 少年の日記

ウォースパイト

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

軍神の隣席で過ごす、少年の日記

# 目次

家元	13
マナージャー？いえ、知らない子ですね	9
戦車道	5
出会い	1

## 出会い

人は、触れてほしくないもの、触れてはいけななことが必ずあるものだ。

それは今の事か、それとも過去の事か。

いずれにせよ触れてほしくないことは人にはある。

いわばタブー。

それは俺でも例外ではない。

俺の過去に触れれば地球は再び大いなる冬が訪れるだろうと断言できるくらいに俺は暴れる。

ただそれは他人の心に土足で入ってくるなということであつて必ずしも全員が全員触れるなということではない。

高校二年生の折り返し。

一度廃校に追い込まれたこの高校は今は何事も無かつたように授業が行われている。

廃校の危機を救つたのは

大洗の軍神と呼ばれている俺の隣席に座る少女のおかげである。

(思えば、みほが来たのは二年生になつてからだっけ……)

(寝てる……)

隣席に座る少年を見て少女、西住みほは心の中でそう呟く。

二年生の時、転校してきて以来ずっと右隣に座る少年は午前の授業はほとんど寝ていることがおおい。

ただ西住みほは少年に悪い印象はない。

挨拶すればきちんと返してくれるし普通に会話もする。

物静かで四六時中眠そうだがやる時はやってくる、そんな気の優しい人。

(疲れてるのかな…)

だからこそみほは心配した。

彼は疲れている。

実際には少年の過去にあるのだがそのことで疲れているとみほは判断する。

授業を受けなければならぬが隣席をみると集中が削がれてしま  
う。

フルフルと頭を振り今は授業に集中しなきやと言いつけさせる。

しかし、ふと思う

(そういえば、こんなに集中が切れちゃうのって…)

そう考えいるうちに段々と顔が熱くなってくるのを自覚する。

先ほどよりも激しく頭を振る。

そして、隣席で寝ている少年を少し睨む。

(もう…結城君のせいだからね…)

これは、少し特殊な過去をもつ少年と軍神と呼ばれる少女の関係を  
記した少年の日記。

○月○日

今日も眠い目をこすりながら登校した。

記念すべき2年生だがかせん眠いのでめでたく思うことは無く、  
集会を終えて教室に戻って寝ていた。

担任の先生…誰だっけ？

まあいい。今日は特になにもなかった。

ただ、隣の席が空いていることが少し気になった

□月□日

隣席は転校生の席だった。

しかも女子。

諸事情によりすこし女子が苦手な俺はせめて印象はいいようにと  
転校生の挨拶にはかなり緊張した。

結構自分でもアワアワしてたと思うが「おもしろいね」といつてく  
れた……これ、悪い印象与えてないよね？

コミュ障が辛い。直したい(切実)

あ、彼女は西住みほと言うらしい。

△月△日

僕は友達が少ない(唐突)

男の友人でも校内に数人居るかどうかである。

だが最近、毎朝西住は俺に挨拶してくる。

ふむ、どうやら悪い印象は与えてなかったようだ。

コミュ障全開だったのによく悪い印象を与えなかったものだ。

あと最近クラスの男子からの視線が痛い。

じろじろ見るんじゃないかね!!って言いたいのがそれを言ったらおれは

今後無事に学校生活が送れるか怪しくなる。

こんど別のクラスに居る友人に聞いてみるか。

それにしても西住は大丈夫だろうか？

見た限り馴染めていないような気がするが……………

●月●日

ここ数日でわかったことは西住は意外と天然気味、すこし落ち着きがない気がする。

というのも後者はおそらく馴染めてないからだろう。

かといつてコミュ障な俺に西住をサポートできるようなことはない。

というわけで頑張つて会話の機会を増やしてみることにした。そのなかでさりげなく自分なりにアドバイスとかもしてみた。

とはいっても休み時間に少し話す程度であるが……大丈夫だろうか？

■月■日

友人と食堂で食事をしていたら西住が三人で食堂に来ていた。

ふむ、これで何とか大丈夫だろうか？

あとは西住が馴染めていけばそれでいいだろう。

ただ友人よ、俺の隣席の子をみて箸が折れるくらいに拳を握りしめて妬み狂った炎をあげるのは止める。

俺たちの席完璧に浮いてるからな？

そのあと西住含め三人がこちらに近づいて来た。

西住はこちらに気付くと食器をおいてわざわざ挨拶しに来た。

お礼も言われた。そんな役にたった覚えはないが……

軽く会話をするとトテトテと戻っていった。

その後目の前に座る友人を見ると妬みの炎が殺気に変わっていた。

今にも襲いかかってきそうなので唐揚げに付いていたレモンを顔面に噴射してやると「目があ!!目があああああ!!」と某王様の用な台詞を叫びながらゴロゴロ地面を転がっていた。

所詮は下級戦士、無様なもんだ。

友人の周りからの評価が5下がった。やったぜ。

日記は続く……………

## 戦車道

→月←日

昨日西住といた二人と話をした。

武部 沙織と五十鈴 華、という名前らしい。

西住が会話で時折俺の名前が出るので興味を持って声をかけてみたらしい。

ある程度話して別れたら昨日レモン汁ブシャー!!してやった友人が再び血に飢えた獣の如く豹変しいまにも襲いかかってきそうだったので腹パンした。

しかし友人、懲りていないのか「お前は俺に！殺されるべきなんだー！ー！ー！」といいながら襲いかかってきた。

これには流石におれも驚き、「バカヤロー！ー！！」って叫びながら振り向き様に左ストレートが炸裂、友人が沈黙した。

……ただならぬ殺気を感じたからやった。反省はしている

〔月〕日

昼休みの時、西住が廊下でナンパされてた。

……ちがう、生徒会になんか囲まれてた。

明らかに西住が困惑してたので仲介。

片眼鏡の先輩に文句を言われたがそれらしい台詞を吐いて半ば強引に西住を教室へつれ戻した。

それでも西住は様子がおかしく、とうとう保健室へ。

何か気になったが武部と五十鈴がいたので今回干渉する余地は無さそうだ。

この後、男女別れて選択科目のオリエンテーションが行われたが興味のあるものが正直なかった。

友人と同じく男子科目の柔道でもするか。



↓月↑日

朝教室にいくと隣席の西住がため息をついていた。

机の上には選択科目の用紙。

何があったのか気になったため声をかけた。

どうやら昨日の生徒会は西住に戦車道を選ぶよう半ば脅迫のような勧誘だったらしい。

仲介してくれてありがとうともいわれたがたいした事はしてないと思う………多分。

それに戦車道は無理に選ばなくていいんじゃないかと言っておい  
た。

嫌ならやらなくていい、無理にやる必要はないとかそれっぽい台詞  
を言っておいた。

その後笑顔で再びお礼を言われたが、それっぽい台詞の後だからか  
正直恥ずかしかった。

その後武部等とともに戦車道は選択しなかったとのこと。  
帰りに五十鈴から聞いた。

昼頃呼び出されてたけど大丈夫だろうか？

( 〇・〇・〇 ) 月 ( 〇〇〇 ) 日

西住が戦車道やるってってきた。

ごめんちよつと待って？結論から言うのはビジネス会話のマナー  
だけど困惑するよ？

理由を聞くとあの後呼び出されて武部と五十鈴もそれについてい

き反論してくれたいらしい。

しかしこれ以上二人に迷惑をかけられないと自ら戦車道をすると言ったらしい。

脅されて無理やり（半分脅迫されたらしいが）というわけでは無いそう。

ひとまず安心……俺もなんか部活した方がいいかな……？

#月「日

なんか生徒会室に呼び出されたんすけど

「なああんたら」

「ん？」

「斎藤君……？」

「西住明らかに困ってるじゃないか、何してんだ」

「貴様、生徒会に楯突けばどうなるかわかって」

「知るかよ、どうにでもしろ。でも、西住がそんな顔してんのは見逃せねえ。もつと周り見ろよ、どう見てもあんたら、脅迫してるようにしか見えねえぞ？いくぞ西住」

「あ、うん……」

「おい！」

「まあまあ、今回は帰ろうか……2年の斎藤結城か……ふくん（ニヤツ）」

「西住？」

「あ、斎藤君……」

「昨日何言われてたんだ？」

「……戦車道を選択するように、って……その……あ、昨日はその、助けてくれてありがとう」

「……やりたくなければやらなきゃいいじゃないか」

「え？」

「別にさ、無理してやる必要はないと思うぞ？なんで戦車道なんかわかんねえけどさ……西住自身がやりたくないって言うなら、やらなくていいと思うっていうか、なんていうかな……とにかく、やりたくないってしっかり意思表示すればいい」

「……ありがとう」

「……別にお礼言われるほどじゃない」

「うん……でも、ありがとう」

「……そうか」

「私、戦車道やることにしたよ斎藤君」

「ごめんちよっと待って？」

マナージャー？いえ、知らない子ですね

#月「日

生徒会室に呼び出された。

……うん、何となく予想はついた。先日の西住とのやりとりで仲介したことだろう。

…仕方ない、俺はともかくこのことで西住に迷惑をかけるわけにはいかんと言いつい訳を思考回路全開で考える。

だが、生徒会長が放った言葉は

『戦車道履修して、マナージャーみたいなことしてくれない??』

……はい???

(ΦωΦ)月(一一)。日(一)日

僕と契約して魔法少女になってよ！といった感じののりでマナージャーを提案された訳だが、正直訳がわからない。

マナージャーを引き受けてくれたら仲介のことは無かったことにするし、単位や食券など様々な特典もつけるとのこと。

それが俺を悩ませていた。

要するに怪しいのだ。

生徒会が何を考えてるのかわからない。

単純にやって欲しいだけなのか、それとも裏があるのか。

ともかく面倒この上ないので保留にし、明日返事をしないといいけない訳だが……正直乗る気がしない。

だが、最近サボり癖もついてきてしまったし部活か何かやろうかと考えてた頃でもあった。

…やるか

(☆▽☆)月(・・;)日

放課後、生徒会長におとこの話を引き受ける事を伝えた。  
それはもう計画通りな顔をされた。

く！その芋けんぴをハバネロにすり替えてやろうか!!と思っただが  
そこは我慢。

んで早速仕事があるらしく内容を聞いた。

すると……大量の資料のような物が入った段ボール数箱を指差し  
昔の大洗戦車道で使用してた戦車とその戦車がどうなったか調べろ  
とのこと。

……しかも明後日まで。

到底終わりそうな気がしないんですけど(名推理)

まあ、要するに……

はめられたああああああああああああああああああ!!

(#、皿)月(☒ω☒)日

眠い。昨日家に持ち帰って遅くまで調べていた結果案外と作業が  
楽しくついつい時間を忘れてやってしまった。

そのためかいつも以上に眠たい。ああ眠い。

日記に一文字一文字書くのも辛い。

だが引き受けた以上やらなければ……(☒ω☒)スヤア……

g月n日

燃え尽きちゃったぜ……。

冗談はさておき昨日寝落ちしてしまっただが何とか徹夜で調べ終え  
て調べた事を報告書を生徒会長に提出。

流石に眠そうだから保健室使っていていいと許しを貰ったので寝ることに。

結構保健室のベッドって気持ちいいんだよな……（☒ω☒）ス  
ヤア……

……そういや最近忙しくて西住と話してないな

k月b日

久しぶり友人と昼食を取った。

何をしていたのかと聞かれたので大まかに説明した。

結果、友人は暴徒化した。

……なんでき

どうやら俺が戦車道を履修してマネージャァしてる事が気にさわつたらしい。

そんなに女子とのやりとりが羨ましいか、今度から友人じゃなくて  
変態（笑）って日記に書いてやるからな！

ちなみに変態（笑）は特製デスソース噴射機で鎮圧した。

t月j日

珍しく早く目が覚めた為に早く登校する途中、西住と会った。

最近忙しそうだったが大丈夫かと聞かれたが『大丈夫だ。問題無い』と返しておいた。

そして一緒に登校した。

教室に着くやいなや男子数名に『どういう関係だ!!』と迫られ弁解に困った。

迫ってきた男子陣を裁いている後方で西住が武部に何か言われたのか顔を真っ赤にしながらも誤解を解いていた。

なお、この噂を聞き付けた変態（笑）が野生化し襲いかかってきた  
がコークスクリューブローで沈めたのはまた別の話。

## 家元

〇月〇日

戦車道というのに全く興味がなかった俺は最初か調べなければいけなかった。

乙女の嗜みとして始まったそれは一つの武道として世界中に認識されている。

日本も例外ではなく流派も存在することのこと。知らなかった・・・まあいいさ、流派が存在するのは今後必要になるとは思えない。片隅に入れておく程度でいいだろう。

( ; ; ; ) 月114日

朝、西住と会ったのでそのまま一緒に登校。もはや日常となりつつある。

基本朝が弱い人間だから寝てしまうのだが・・・最近隣席の西住に起こされている。

寝るのはよくないことだとわかっていながらも寝てしまうのだ。

あと眠くなる授業をする先生が悪いと真剣に説くと西住に怒られた。何故だ・・・

しかし、怒られるのも悪くない。しかも怒っているのは美少女ときた。

女性が苦手な部類に入るのだがここまで真剣に注意してくれるとほんとに心から言ってくれてるとわかるし、むしろ新鮮だ。

・・・あ、Mじゃないからね？

〇月514日

昼食中、変態(笑)からきになることをきいた。

なんでも西住が二年で転校してきた理由が分かったかもしれない



というのだ。こいつはこいつで探りを入れていたらしい・・・その探りを入れるのと俺に対する殺意の行動力をもっとほかの所にいかせないのだろうか・・・

まあいい、変態（笑）から得た情報を元に放課後パソコンを起動しネットの某動画サイトにある言われた動画を見る。

昨年の戦車道の大会の動画・・・そこに、西住が映っていた。

瓜二つどころではない。おそらく本人だろうと確信できた。

そして、もう一つの情報。

西住流という流派が戦車道に存在するらしく俺の隣席の西住みほはその師範の娘だという。

動画を見る限り西住のチームは負けた。

そして、この学校にきた。

それで大体を察した。そして怒りが込み上げてきた。

何故西住があの時生徒会の戦車道の勧誘に怯えていたのか

なぜやりたくなさそうにしていたのか

生徒会は事情を知りながらも西住接近したのだ。

激しい怒りだ。他人のことに怒りを覚えたのはどれくらい久しぶ

りだろうか。

それと同時に疑問も抱いた。

何故西住の事情を知りながらも彼女に接近したのか。

何故そこまで無理やりにもやらせようとするのか。

考えすぎだと思うが、何か裏があるんじゃないか？という疑念を抱いたのだ。

相手は生徒会、探りを入れるのは難しいができないわけではない。変態（笑）に報酬をちらつかせて探りを入れてみよう。

・・・家元か。同じだな、俺も、西住も

k月1919日

本日も西住に半ば怒られながら授業を受けた。

しかし、戦車というのはなかなか興味をそそられた。

もうあれは乙女の嗜みだけに踏みとどまるものではない。あの写真でみた戦車はロマンが詰まっていた。これは新しい趣味が見つかったような感じだ。

最近が生徒会の仕事をこなしつつ戦車も国ごとに調べ始めている。特にドイツやソ連の戦車には惚れた。

なにあのキングタイガーとかIS-3とか、めっちゃカッコイイんですけど。

この仕事、案外楽しくなるかもしれない